

ユーリー・ノルシュテイン

# 《外套》をつくる

この30年……  
外套のことだけ  
考えてきた

Yuriy Norshteyn:

Making  
the Overcoat

監督: 才谷 遼 製作: アート・アニメーションのちいさな学校、株式会社ふーじょんぶろだくと、株式会社ラビュタ、ユジク阿佐ヶ谷  
出演: ユーリー・ノルシュテイン、ラリーサ・ゼネーヴィチ、マクシム・グラニク、ターニャ・ウスヴァイスカヤ、ミハイル・アルダーシ、ミハイル・トゥマーリヤ  
構成・編集: 川島章正 撮影監督: 加藤雄大 音楽: ボリス・ベレゾフスキー 通訳・字幕翻訳: 児島宏子 翻訳協力: 鍵村 修、Belykh Marin  
「鼻」アニメーション: 地場賢太郎 ノルシュテイン作品映像: ©2016 F.S.U.E C&P SMF, 株式会社 WOWOWプラス  
2018年/日本/ロシア語、日本語/109分 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 配給: ラビュタ 配給協力: ノーム





# 苦悩、情熱、そして創造——アニメーションの神様、 ノルシュテインの深部に迫るドキュメンタリー

ロシアを代表するアニメーション作家ユーリー・ノルシュテイン。  
彼は30年以上の歳月をかけてゴゴリ原作『外套』の  
アニメーション作品を制作しているが、しばらく撮影をしていない。  
2016年6月、モスクワにあるノルシュテイン・スタジオ“アルテ”。  
おびただしい数のスケッチ、キャラクターパーツ、  
埃をかぶった撮影台…。  
世界が待望する『外套』はいつ完成するのか、  
なぜ『外套』なのか、ノルシュテイン自らが語る。



## ユーリー・ノルシュテインが挑む、 ゴゴリの名作——小説「外套」

舞台は帝政ロシア時代の Санкт・ペテルブルグ。  
真面目で貧しい下級役人アカーキー・アカーキエヴィッチは  
長い間 着古し 修繕不可能となった《外套》に別れをつけ  
生活を切り詰めて 貯めたお金で新しい《外套》を手に入れた。  
清書することが生き甲斐で役所で目立つことが無かった  
アカーキーが新調した《外套》を着ていくと  
今まで仲間はずれにしていた  
役所の連中がこの話題で持ち切りとなり  
アカーキーの新しい《外套》のため祝杯をあげる騒ぎとなった。  
ところがある夜 カリンキン橋の上で追剥ぎに遭い  
新しい《外套》を盗まれてしまう。  
失意のうちに死んだアカーキーは幽霊となり  
夜な夜な 盗まれた外套を捜しに現れた。



f @gaitou2019  
making-overcoat.com

この作品は私にとってすべてが新しいのだ。  
映画フレームの構成  
キャラクターたちの行為……  
もしかしたらだいたい前に発見されたことを  
私の意識が再び発見しようとして  
しているのかもしれない。

## ユーリー・ノルシュテイン 《外套》をつくる



Yuri Norshteyn  
ユーリー・ノルシュテイン

ロシアのアニメーション作家。『25日——最初の日』(68)でデビュー。  
『キツネとウサギ』(73)『霧の中のハリネズミ』(75)  
『話の話』(79)等を制作。切り絵技法による、独特の詩的で繊細な  
作風が多くの人々を魅了し、映像詩人と評される。  
日本をはじめ世界中のアニメーション作家たちに  
多大な影響を与えている。30年以上の歳月をかけ  
ゴゴリ原作『外套』を制作している。

私は自分が  
待たれていることについて  
考えるのは好まない  
期待されていることは  
私にとって恐怖だ